

アベノミクスの光と影

—これまでの6年、これからの3年—

日時:2018年12月15日(土)14:00~18:00

場所:立教大学12号館4階・経済学部共同研究室(池袋)

開催趣旨

2018年9月、安倍晋三首相の自民党総裁3期目がはじまったことに伴い、これまでに6年間続いたアベノミクスは、これからも3年間は続くことがほぼ確実となった。この間、GDPは拡大し、企業収益は改善され、雇用は増加し、株価も上昇するなど、日本経済は「失われた20年から脱却した」とも言われるほどの経済指標の改善が見られた。その一方で、政府と日銀が目指しているインフレ目標は達成出来ないままであり、非正規雇用は増え続け、地方創生は置き去りにされたままである。また、アベノミクスの「三本目の矢」として位置づけられている成長戦略の実施は遅れ、技術革新や産業構造転換のペースは緩慢で、企業の国際競争力も高まっているとは言い難い。今回の研究会では、これまでの6年間のアベノミクスが日本経済に何をもたらしたのかについて総括し、これからの3年間の課題と展望について、アベノミクスに肯定的な視点と否定的な視点の両面から議論を行う予定である。

年末ご多忙の折ではございますが、是非ご参加くださいますようよろしくお願い申し上げます。

プログラム

参加自由

- 14:00~14:50 第一報告 浅田統一郎(中央大学)
「アベノミクスの成果と課題:2018年12月時点での評価」
- 14:50~15:40 第二報告 服部茂幸(同志社大学)
「アベノミクス:迷走する金融政策」
- 15:40~16:00 コーヒー・ブレイク
- 16:00~16:50 コメンテーター 金子勝(立教大学)
- 16:50~18:00 報告者リプライと全体議論

*研究会終了後、池袋駅西口付近にて懇親会を開催する予定です。